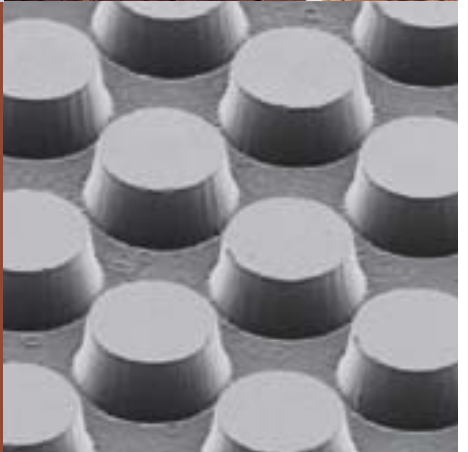


フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

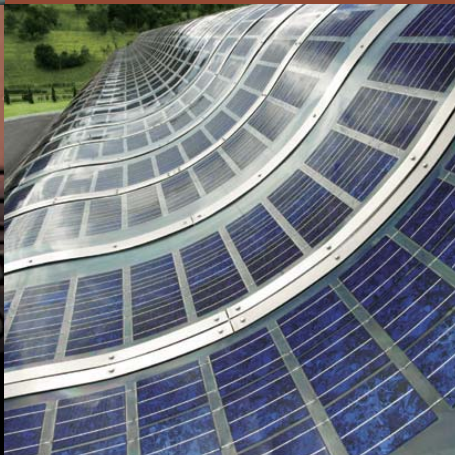
プレ
Pre
2006.12 Vol.8

第25期中間事業報告書



特集 **Challenge to technology**

「ナノテクノロジー」
見えない世界への挑戦。



FUJI PREAM

フジプレミアムは、3つのコア技術で時代を拓きます。



最先端テクノロジーで、ディスプレイデバイス業界を牽引。



PDP用光学フィルター・ダイレクトフィルター、液晶偏光板フィルムの製造・販売

独自の技術で、環境保護とエコエネルギーの普及に貢献。



採光型太陽電池モジュール、太陽光発電応用製品の製造・販売

時代の基幹技術「ナノテクノロジー」を、産学官で共同研究。



放射光による超微細加工技術の研究

フジプレミアムは、研究開発型企業として3つのコア技術を基本に、時代と顧客のニーズに的確に応え、人々の豊かな暮らしに貢献することを目指しています。

日々急速な進歩を遂げるディスプレイデバイスの世界、持続可能な社会づくりに寄与するためのエコエネルギー市場、これからの未来を支えるナノテクノロジー市場において、さらなる技術の向上と、新たな技術の取得に努めています。



代表取締役社長
松本 實藏

株主、投資家の皆様へ。

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、当社事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第25期(平成19年3月期)中間事業報告書をお届けするに当たり、ご挨拶申し上げます。

当事業年度中間期の業績は、当初の予想を下回り、残念ながらご期待に沿える結果には到りませんでした。当社主力事業であるFPD関連事業においては、デジタル製品をめぐる価格競争の激化、原油価格の高騰などの悪材料は否めないものの、需要の急速な拡大に伴い、販売台数は確実に伸長し、市場の成熟度は日々増しております。また、クリーン・エコエネルギー関連事業の軸である太陽光発電関連製品の開発においては、ようやく開花の一途をたどろうとしており、「播磨テクノポリス光都PV(太陽電池)工場」は新年早々にも本格稼働を予定しております。モジュール製造だけでなくセルメーカーとして、一日も早い地位の確立を目指します。そして、メカテクノロジー・その他部門では、社内外からの各事業部門への支援を基調とし、さらなる研究開発を重ね、超微細加工技術によるバイオなど新分野の開拓に注力しております。

当社グループは、これまででもこれからも、社会環境の変動に一喜一憂することのない堅実さを備え、常に長期的視野の中で事業を推進し、成長する企業グループを目指します。昭和57年の創業以来、創ることから届けることまで、顧客のニーズに対してトータルに提案できる企業でありたいと、「精密貼合技術」「太陽電池モジュール製造技術」を核として「ものづくり」に邁進してまいりました。その間に事業形態の変遷、拡大を繰り返し、本年度より、新たに「フジプレミアム商事株式会社」を設立。更なる飛躍の礎を着実に築いております。また、研究開発型企業としても高付加価値製品の創出に努力を重ね、今後も「精密貼合」のリーディングカンパニーとしてチャレンジを続けてまいります。

特集

Challenge to technology

「ナノテクノロジー」見えない世界への挑戦。

フジプレアムのコア技術のひとつであるナノテクノロジー(超微細加工技術)。平成12年より開始した研究の成果が、今、実りつつあります。今回の特集は、胎動をはじめたナノテク市場と、当社の取り組みをご紹介します。

大型放射光施設を利用し、産学官で研究・開発を推進しています。

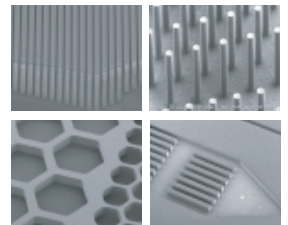
ナノテクノロジーとはナノメートルつまり、100万分の1mmという小さな世界でのモノづくりを可能にする技術。未来のモノづくりを変える技術として世界が注目している、最先端の技術です。当社では放射光を利用したナノテクノロジーの研究・開発を兵庫県立大学、兵庫県立工業技術センターと共同で進めています。研究拠点は播磨科学公園都市内の大型放射光施設「SPring-8」に隣接した実験施設「ニュースバル」。携帯端末部品の開発からはじまった共同研究も今年で6年。事業化への道が少しずつ見えはじめました。



世界最大級の加工・積層技術を確立。主に、医療分野での活用を想定しています。

ナノテクノロジーの中でも当社が着目したのは、金型を用いたプレス工法をナノレベルで実現する、ナノインプリント技術。その金型づくりの幅を広げるために欠かせないのが放射光です。放射光によってつくられた精巧な金型をアクリル樹脂板などに押し付け、成形基板を作成することを目指し、ついに、放射光による加工では世界最大級となるA4サイズでの金型形成、複製基板づくりを実現。さらに、その基板を積層し、接合する技術までを確立しました。ナノレベルでの原盤作製から金型形成、複製成形基板作製、接合までの一連の技術を当社では「三次元ナノプロトタイプング」と呼び、主に「バイオチップ」など、医療分野での活用を考えています。

●微細加工例



●三次元ナノプロトタイプング

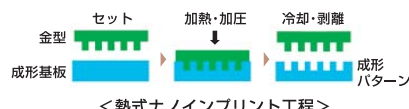
金型形成

金属製のマスクを介してアクリル樹脂などに放射光を照射することで原盤を作製し、それを電鍍することにより金型を形成



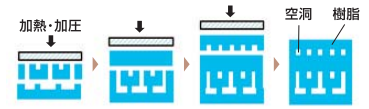
複製成形基板作製(ナノインプリント、射出成形)

金型を成形基板に押し付け、複製

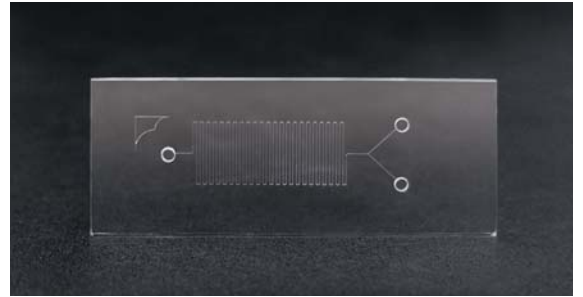


積層接合

成形された基板を重ね、接着剤なしで、接合



未来の医療を占うキーワード、 「バイオチップ」。 来たるべき市場の拡大に、 フジプレアムが動き出しました。



バイオチップの一例(当社試作品)

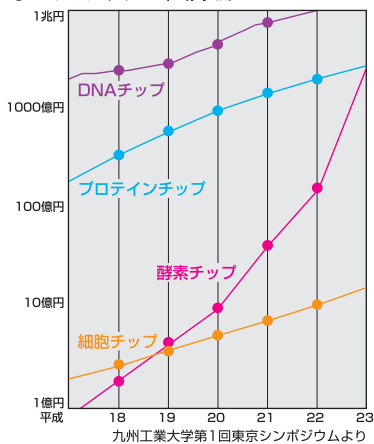
遺伝子解析、テーラーメイド医療…。 バイオチップの可能性に世界が注目しています。

バイオチップとは、遺伝子やタンパク質をはじめとする生物材料などの解析に欠かせない検査器具のひとつ。大型の解析装置を必要とせず、診断にかかる時間コストの大幅ダウンを可能にする等、様々なメリットがあります。現在は医療研究機関での需要が中心ですが、将来は家庭での健康診断や生活習慣病の治療、一人ひとりの特性に合った治療など、広範囲への活用が期待されています。現在、国内での実用化例はまだ少なく、市場は胎動期。しかし2010年頃、市場は現在の20倍以上に拡大すると見られ、今、最も注目されている市場のひとつです。

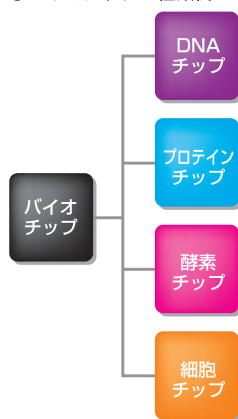
フジプレアムならではの技術が、 より高効率な解析を可能に。

バイオチップは遺伝子やタンパク質の分離や検出等を一枚のチップ上で行うため、ガラスや樹脂等の基板表面上に、流路・回路を成形する必要があります。そのガラスや樹脂の加工に欠かせないのがナノテクノロジーであり、当社の「三次元ナノプロトタイピング」です。現在、当社では「三次元ナノプロトタイピング」を活用し、96もの項目を一度に解析できるマイクロタイプレートサイズの「96穴集積型マイクロチップ」の量産技術を確認。今後はさらに、チップ上であらゆる分析・解析・合成が行える集積型チップの開発を推進し、解析感度、効率の向上を目指します。

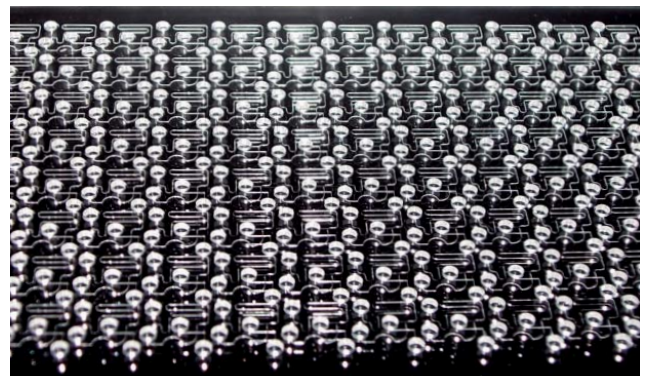
●バイオチップの市場予測



●バイオチップの種類例



●96項目の分析を可能にするバイオチップ「96穴集積型マイクロチップ」



**展示会では確かな手応え。
新たな共同研究・開発を検討中です。**

「三次元ナノプロトタイピング」を活かしたバイオチップの早期事業化を目指すため、フジプレアムでは、バイオテクノロジー関連の展示会等への出展を強力に推進しています。世界最大級のA4サイズでの超微細加工技術や、接合技術、設計、加工、評価まで一貫して行える、当社ならではの生産体制への評価は大変高く、研究・開発パートナーとしてのオファーも数多くいただいています。フジプレアムならではのモノづくりを通じて、一日でも早く、未来の医療に大きく貢献できる日を

目指し、さらなる技術の研鑽に精進して参ります。



バイオビジネスの発展をテーマに開催された「バイोजパン2006」での当社ブース

今後の出展予定

ナノバイオExpo2007

■開催日時
2007年2月21日(水)～23日(金)
10:00～17:00

■場所
東京ビッグサイト

**意欲ある若手スタッフを中心に、
事業化への道を創造しています。**



入社7年目。長年の研究を实らせ、いち早く世に“わが子”を出してあげたいです。

バイオチップはフジプレアム研究開発部からの初めてのプロダクトとなります。事業化への兆しが見えてきたことに、感慨もひとしおです。バイオチップは私にとって、わが子同然。早く世に出して、感謝されるような製品に育て上げたいですね。

研究開発部 南谷めぐみ



**医療業界の不可能を、可能にする。
それが、私の使命だと感じています。**

バイオチップの研究は、不可能とされていることが多い分野。しかし、私たちは数々の挑戦で、未知や不可能を覆し、事業化までもう少しという所まできました。今後はさらなるレベルアップで病気の診断や創薬に役立つ商品の開発を目指します。

研究開発部 諏訪一勇



**自分で設計したものを商品に。
この夢は必ず実現させたいですね。**

これまで、丹念に進めてきたバイオチップの研究。若手でも自由に研究できる雰囲気は大手企業にはなかなかないもの。だからこそ今が、自分自身の夢をかなえるチャンスだと思っています。自分の夢を実現することで、少しでも会社に貢献できたらいいですね。

研究開発部 池田智宏

● Pre(プレ)Vol.2

フィルムラミネート技術

当社が誇る「精密貼合技術」を活かしたフィルムラミネートガラスをご紹介します。今後の課題や取り組みもお伝えしています。

● Pre(プレ)Vol.5

「太陽電池」が未来を照らす。

競争が激化する太陽電池市場において革新的な「集光型球状シリコン太陽電池」を通常よりページをさいて詳細にご紹介。

バックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。<http://www.fujipream.co.jp/>

● Pre(プレ)Vol.3

「太陽電池」を育てる

急成長を続ける太陽電池市場。その中で、独自技術を活かし環境に貢献する当社の戦略と取り組みを特集。

● Pre(プレ)Vol.6

「設備投資で強く、大きく」

太陽電池市場と共に、好調に推移する当社のソーラー事業と併せて、設備投資への取り組みをご紹介します。

● Pre(プレ)Vol.4

未来に近い街「播磨科学公園都市」

当社の「播磨テクノポリス光都工場」建設の地であり、科学技術の集積地として注目される「播磨科学公園都市」をご紹介します。

● Pre(プレ)Vol.7

「PDP」大画面テレビの主役へ

活況が続くFPD業界の中でも、特に注目されているPDPの大画面テレビにスポットをあて、FPD市場における、大型化の動きをお伝えしています。

FUJIPREAM HSP REPORT

太陽電池の新時代を切り開く!

Hybrid Solar Panel 交流/直流出力太陽電池パネル



※持ち運べる太陽光発電システムとして、2005年2月フジプレアム調べ。

※
世界初

新たにラインナップを追加!

ポータブル・ハイブリッド・ソーラーパネル「P-HSP」。

工事や専門知識が必要なく、誰でもどこでも太陽光発電システムを使える画期的システム「HSP」に、新モデル「P-HSP」を追加しました。1パネルタイプの「HSP」に対し、三つ折り式を採用し、携帯性をアップ。さらに、蓄電池を搭載するなど「HSP」の性能を早くも進化させました。現在、開発の最終段階を迎えている「HSP」と併せて、いち早い商品化を目指し、研究・開発を進めています。



「P-HSP」が太陽光発電システムの日用品化を強力に推進。

120Wの大出力。設置はDIY感覚。

携帯型でこの最大出力は世界初※1。誰でもDIY感覚で簡単に設置できます。

誰でも簡単にセットアップ!



アウトドアの電源や災害時の備えに。

パワーコンディショナーも120W。さらに蓄電池(12V-7Ah)を内蔵しています。電源の確保が難しいキャンプ場、海や山などアウトドアシーンで大活躍。ノートパソコンや携帯電話、ラジオの電源としても利用でき、一刻も早い情報入手が望まれる災害時・非常時にも役立ちます。

屋外での電気製品の使用に!



※1 2006年10月現在 フジプレアム調べ

「新エネルギー世界展示会」へ出展。反響の大きさに驚き。

10月に幕張メッセで開催された「第1回 新エネルギー世界展示会」へ、フジサンエナジーと共同で出展いたしました。海外からの来場者の方が予想より多く、当社グループの技術を大きくアピールすることができました。出展ブースのその場で商談が進むなど、期待以上の反応に出展スタッフは期間中、休み時間もなかったほど。当社グループでは今後も展示会などへの積極的な参加で、「HSP」・「P-HSP」を強力にアピールして参ります。

第1回 新エネルギー世界展示会

日時 2006年10月11日(水)～13日(金) 10:00～17:00
場所 千葉市美浜区中瀬2-1 幕張メッセ 国際展示場5・6Fホール
来場者数 延べ20,203名(国際会議参加者は含まれておりません)



営業の状況

■営業の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業業績の改善や設備投資の増加等により、個人消費も堅調に推移するなど、着実な景気回復が進みました。

当社の関連業界であるフラットパネルディスプレイ市場においては、需要が急速に拡大したことに伴い、販売台数は伸長したものの、大型テレビなどのデジタル製品を巡る価格競争の激化に加え、原油価格の高騰等による素材価格の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは、フラットパネルディスプレイ関連事業において、生産数や部材価格の低下など厳しい環境ながら、今後を見据え、受注数変動への柔軟な対応や、新たな商品への取組み等、研究開発や設備投資にも積極的に取組みました。

また、クリーン・エコエネルギー関連事業については、欧州市場をはじめとする世界的な太陽光発電の普及に伴い、当社グループにおきましても業容が拡大しております。

この結果、当中間連結会計年度の業績は、売上高11,469百万円(前年同期比1.3%増)、経常利益665百万円(同16.6%減)を計上し、中間純利益は372百万円(同14.2%減)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

〈フラットパネルディスプレイ部門〉

PDP用光学フィルター及びダイレクトフィロタターの製造におきましては、依然としてPDPの潜在的な需要は拡大しているものの、液晶ディスプレイとの競争激化による生産数の調整や、有償支給部材の販売価格低下が業績に影響しました。

当社グループは、今後もこのような厳しい状況が続くことを視野に入れ、自動化設備を含む生産方法の見直しや、工程の合理化への投資を



推し進めておりますが、短期的な見通しを再考し、計画を修正しました。

この結果、売上高は9,100百万円(前年同期比4.6%減)、営業利益は390百万円(同28.1%減)となりました。

〈クリーン・エコエネルギー部門〉

太陽電池モジュール及び太陽光発電応用商品等の販売については、欧州市場をはじめとする世界的な太陽光発電の普及に伴い、国内外とも受注が拡大し、好調に推移いたしました。

また、当社グループでは、太陽電池モジュールのコスト改善が期待される、集光型球状シリコン太陽電池の事業化への積極的な投資を続けており、播磨テクノポリス光都工場隣接地に新工場を建設するなど、一日も早い業績の貢献を目指しております。

この結果、売上高は1,362百万円(前年同期比27.0%増)、営業利益は87百万円(同5.3%減)となりました。



〈メカテクノロジー・その他部門〉

従来から行っている産業用包装・梱包機械の製造及び物流業務におきましては、ほぼ計画どおり推移いたしました。

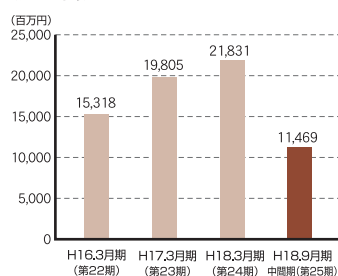
また同部門では、当社グループにおける生産技術、物流、その他諸費の統括を行い、グループ全体の業務を円滑に遂行できるよう取組み、物流関係事業を行うイマクル株式会社を連結対象会社とし、グループ全体の購買業務等を行うフジプレミアム商事株式会社の立上げを行いました。

この結果、売上高は1,005百万円(前年同期比43.4%増)、営業利益は107百万円(同25.3%減)となりました。

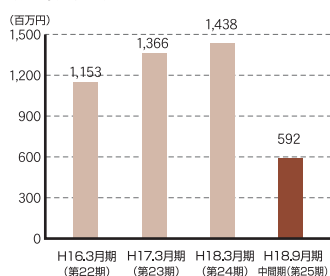


■財務ハイライト(連結)

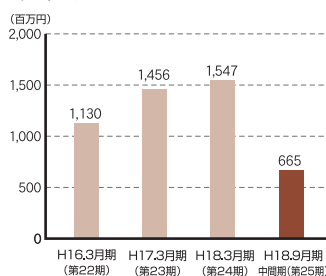
〈売上高〉



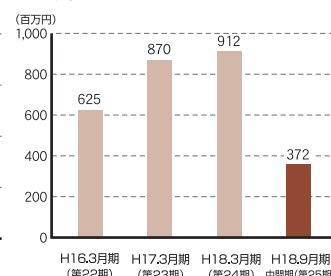
〈営業利益〉



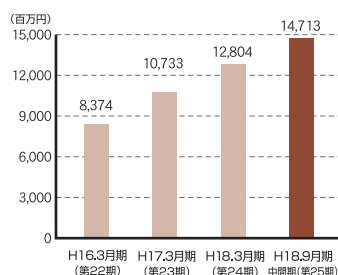
〈経常利益〉



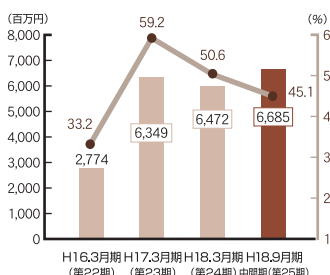
〈当期純利益〉



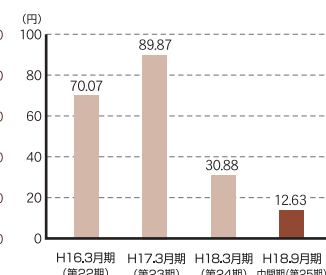
〈総資産〉



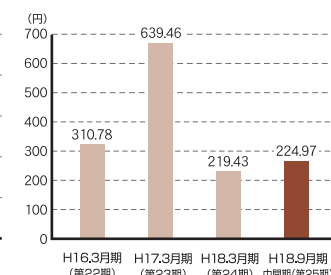
〈純資産／自己資本比率〉



〈1株当たり当期純利益〉



〈1株当たり純資産〉



※当社は以下の株式分割を行っております。

- (1)平成16年3月22日付で株式1株につき20株の分割を行っております。
- (2)平成17年12月26日付で1株につき3株の分割を行っております。

※H18.9月中間期:期中平均株式数 29,498,100株

※H18.9月中間期:期末発行済株式数 29,498,100株 期末自己株式数288,300株

■セグメント別売上高(連結)

セグメント	第25期(当中間期)		第24期(前中間期)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
フラットパネルディスプレイ部門	9,100	79.3	9,542	84.3
クリーン・エコエネルギー部門	1,362	11.9	1,072	9.5
メカテクノロジー・その他部門	1,005	8.8	701	6.2
合計	11,469	100.0	11,317	100.0

※百万円未満については切り捨てております。

中間連結財務諸表(要旨)

中間連結貸借対照表

金額(千円)

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)	科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
資産の部			資本の部		
流動資産	8,338,672	7,219,846	資本金	—	2,000,007
現金及び預金	3,764,248	3,677,486	資本剰余金	—	2,440,803
受取手形及び売掛金	3,398,283	2,665,896	利益剰余金	—	2,404,965
たな卸資産	910,449	650,704	その他有価証券評価差額金	—	△2,527
その他	265,691	225,758	為替換算勘定項目	—	29,354
固定資産	6,367,714	5,571,263	自己株式	—	△399,700
有形固定資産	5,962,152	5,191,849	資本合計	—	6,472,904
無形固定資産	4,438	4,243	負債、少数株主持分及び資本合計	—	12,804,835
投資その他の資産	401,123	375,170			
繰延資産	7,362	13,725			
資産合計	14,713,749	12,804,835			
負債の部			純資産の部		
流動負債	4,758,681	2,999,337	株主資本	6,609,823	—
支払手形及び買掛金	2,989,558	2,324,798	資本金	2,000,007	—
短期借入金	1,260,800	100,000	資本剰余金	2,440,803	—
未払法人税等	267,454	333,377	利益剰余金	2,568,712	—
賞与引当金	34,780	21,838	自己株式	△399,700	—
その他	206,088	219,321	評価・換算差額等	26,455	—
固定負債	3,269,329	3,292,188	少数株主持分	49,459	—
長期借入金	3,005,328	3,000,000	純資産合計	6,685,738	—
退職給付引当金	—	3,558	負債、純資産合計	14,713,749	—
その他	264,001	288,630			
負債合計	8,028,011	6,291,525			
少数株主持分	—	40,406			

※千円未満については切り捨てております。

中間連結損益計算書

金額(千円)

科目	当中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	11,469,200	11,317,072
売上原価	10,258,272	10,024,860
販売費及び一般管理費	618,761	504,192
営業利益	592,165	788,018
営業外収益	99,879	30,075
営業外費用	26,129	19,878
経常利益	665,915	798,216
特別利益	—	283
特別損失	22,464	—
税金等調整前中間純利益	643,451	798,500
法人税、住民税及び事業税	269,100	354,841
法人税等調整額	△7,379	3,436
少数株主利益	9,053	5,777
中間純利益	372,677	434,444

中間連結キャッシュ・フロー計算書

金額(千円)

科目	当中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	241,499	347,803
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,019,943	△830,935
財務活動によるキャッシュ・フロー	841,802	△234,843
現金及び現金同等物に係る為替差額	△5,217	3,214
現金及び現金同等物の増加額	58,140	△714,760
現金及び現金同等物の期首残高	3,618,486	3,689,512
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	28,621	45,790
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,705,248	3,020,542

中間単独財務諸表(要旨)

中間単独貸借対照表

金額(千円)

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	5,887,243	5,291,408
当座資産	4,993,469	4,539,030
たな卸資産	650,310	536,274
その他	243,463	216,104
固定資産	6,346,450	5,530,038
有形固定資産	5,643,638	4,858,353
無形固定資産	3,542	3,744
投資その他の資産	699,270	667,940
繰延資産	7,362	13,725
資産合計	12,241,056	10,835,172

負債の部

流動負債	2,854,997	1,490,450
支払手形及び買掛金	1,548,541	1,157,239
短期借入金	1,000,000	—
固定負債	3,000,000	3,003,558
長期借入金	3,000,000	3,000,000
退職給付引当金	—	3,558
負債合計	5,854,997	4,494,008

資本の部

資本金	—	2,000,007
資本剰余金	—	2,440,803
利益剰余金	—	2,302,580
その他有価証券評価差額金	—	△2,527
自己株式	—	△399,700
資本合計	—	6,341,163
負債、少数株主持分及び資本合計	—	10,835,172

科目

当中間期
(平成18年9月30日現在)

前期
(平成18年3月31日現在)

純資産の部

株主資本	6,385,845	—
資本金	2,000,007	—
資本剰余金合計	2,440,803	—
利益剰余金	2,344,734	—
自己株式	△399,700	—
評価・換算差額金	212	—
純資産合計	6,386,058	—
負債、純資産合計	12,241,056	—

中間単独損益計算書

金額(千円)

科目	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	8,636,762	10,047,763
売上原価	7,841,065	8,904,013
販売費及び一般管理費	443,611	410,369
営業利益	352,085	733,380
営業外収益	97,411	7,358
営業外費用	18,425	16,591
経常利益	431,071	724,147
特別利益	—	283
特別損失	22,464	—
税金等調整前中間純利益	408,607	724,431
法人税、住民税及び事業税	201,327	317,051
法人税等調整額	△11,863	△109
中間純利益	219,143	407,489
前期繰越利益	—	933,574
中間未処分利益	—	1,341,064

※千円未満については切り捨てております。

会社概要

■株式の状況 (平成18年9月30日現在)

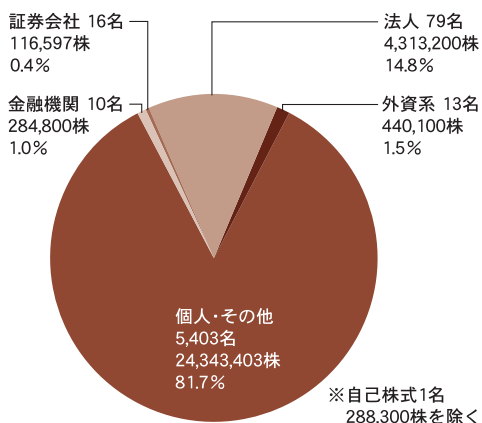
会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	5,522名

■大株主

松本實藏	15,130,700株
松本庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本倫長	406,800株
松本春代	360,000株
松本守雄	330,000株
フジプレミアム株式会社(自己株式)	288,300株

■株式分布状況

所有者別株主数



■会社概要 (平成18年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation (英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表取締役社長	代表取締役社長 松本實藏
資本金	2,000百万円
事業内容	PDP用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 生産技術システム関連事業 他
従業員数	516名 (連結、臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社・姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所・東京オフィス
連結対象となる子会社	フジサンエナジー株式会社 (設立 平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司 (設立 平成15年9月) イマクル株式会社 (設立 平成15年10月) フジプレミアム商事株式会社 (設立 平成18年7月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

■取締役及び監査役 (平成18年6月29日現在)

代表取締役社長	松本 實藏
取締役副社長	松本 守雄
専務取締役	田頭 未徳
常務取締役	牛尾 哲之
常務取締役	手塚 博文
常務取締役	原 一雄
取締役	松本 春代
取締役	大川 拓志
取締役	池田 尊士
取締役	石見 健三
取締役	藤田 和也
取締役	戸叶 威雄 (社外)
常勤監査役	松本 毅
監査役	杉山 正幸
監査役	田中 千秋

トピックス Topics

TOPICS 1 国際展示会「SEMICON japan2006」に出展いたしました。

世界各国から約1,600社が参加し、先進の技術・製品が結集した「SEMICON japan2006」。当社は太陽電池関連製品を中心に展覧いたしました。当社グループの高い技術と新規性のある製品への評価は高く、フジプレアムグループのモノづくりを大きくアピールすることができました。

SEMICON japan2006

【日時】平成18年12月6日(水)～8日(金) 10:00～17:00 【場所】幕張メッセ 1-11ホール、イベントホール
【出展品】集光型球状シリコン太陽電池CBセル/モジュール、建材一体型太陽電池モジュールを中心に展覧



TOPICS 2 中間決算説明会及び新工場見学会を開催いたしました。

毎年、東京にて開催しておりました決算説明会を今年は工場見学会も兼ねて、当社「播磨テクノポリス光都工場」にて行いました。本格稼働が来年早々と間近に迫った太陽電池の新工場も併せて皆様にご覧いただき、PDP用光学フィルターの生産とともに、太陽電池の未来に大きな期待が寄せられました。

平成19年3月期中間決算説明会兼播磨テクノポリス光都工場見学会

【日時】平成18年12月5日(火) 14:00～15:30 【場所】播磨テクノポリス光都工場及び播磨テクノポリス光都PV(太陽電池)新工場
【参加人数】約30名



TOPICS 3 社員研修会を実施いたしました。

一般社員を中心に、フジプレアムグループ従業員としての自覚、意識を強化・向上する目的で、外部より講師を招き社員研修を行いました。社員に配付されている、倫理綱領・行動規範の携帯用パンフレットをもとに、コンプライアンス教育の徹底を改めて図るとともに、一般常識、マナーの確認、ものづくりにおける基本的な考え方を再度、教育いたしました。

社員研修会

【日時】平成18年11月23日(祝)～12月14日(木)の期間内で計6回 【場所】フジプレアム本社



TOPICS 4 「NEDO技術開発機構」との共同研究が決定いたしました。

「新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術開発機構)」が「太陽光発電システム実用化加速技術開発」に関して開発テーマを広く募り、当社は「太陽光・蓄電ハイブリッドシステムの技術開発」をテーマに応募。有望なテーマとして採択され、「NEDO技術開発機構」との共同研究契約を締結いたしました。太陽光発電システムの普及をより一層、拡大できる好機として今後も研究を推進してまいります。

フジプレ
が選ぶ

「おすすめクリスマスイベント」を楽しむ

街にはクリスマスソングが流れ、一年で最もロマンチックな季節がやって来ました。クリスマスのデート、お出かけコースはお決まりですか？ 今回の播磨探訪はクリスマスを華やかに、楽しく演出してくれるクリスマスイベントをご紹介します。

クリスマス
イベント

冬の姫路を光で彩る

〈姫路駅周辺〉

HIMEJI Wintpia

姫路市や駅前の商店街の方を中心にはじまった毎年恒例のイルミネーションイベント。姫路駅周辺が光に包まれ、街全体が華やかに。今年はフォトコンテストも開催されます。



【日時】2007年1月14日(日)まで
【場所】姫路駅北側周辺
【アクセス】JR/山陽電鉄「姫路」駅、下車すぐ

クリスマス
イベント

50品種のポインセチアが一堂に

〈兵庫県立フラワーセンター〉

クリスマスワールド&ポインセチアコレクション

クリスマスの花と言えばポインセチア。兵庫県立フラワーセンターでは定番の赤と白だけでなく、様々なポインセチアと、世界のクリスマスを紹介するイベントを実施中です。



【日時】12月24日(日)まで
【場所】兵庫県立フラワーセンター
加西市豊倉町飯森1282-1
【アクセス】JR/山陽電鉄「姫路」駅より神姫バス「アステアかさい」行き乗車、
「終点」下車、タクシーで約10分

クリスマス
イベント

世界中のクリスマスを見て学べる

〈日本玩具博物館〉

世界クリスマス紀行

毎年恒例のクリスマス展。今年は世界45カ国のクリスマス飾りを地域ごとに展示しています。期間中は絵本朗読会やクリスマス飾りづくりなど、楽しい催しも盛りだくさんです。



【日時】2007年1月23日(火)まで
【場所】日本玩具博物館 姫路市香寺町中仁野671-3
【アクセス】JR「姫路」駅より播但線に乗り換え、
「香呂」駅下車、徒歩約15分



このイベントにも注目!

見どころは北播磨最大級の
巨大ツリー

〈小野市〉

クリスマス
イルミネーション

市民の交流などをテーマに、地元の小学校や中学校の生徒らが中心となって開催される手づくりのイルミネーション。高さ14mの光り輝くツリーは一見の価値あります。

【日時】12月24日(日)まで
【場所】コミセンおの(市民会館)周辺
小野市王子町
【アクセス】神戸電鉄「小野」駅より
徒歩約15分

